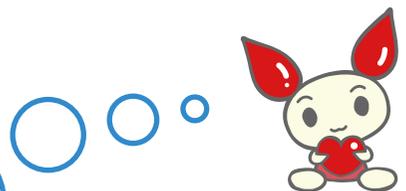
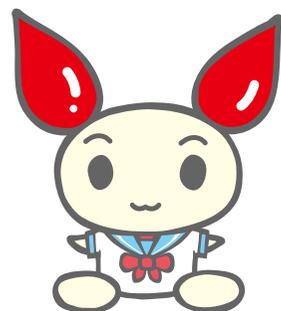
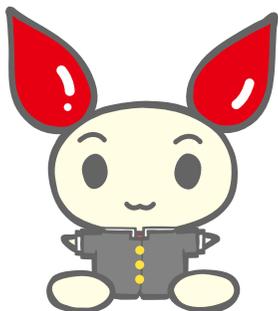


けんけつ HOP STEP JUMP

献血は命を
つなぐ
ボランティア



教員用



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

2020年度版



献血ってどうして必要なの？



○血液を必要としている患者さんが大勢いる

○血液は・・・

- ・人工的に造れない
- ・長期保存ができない

例えばこんな病気の治療に…

- ・がん
- ・白血球
- ・感染症
- ・血友病
- ・神経難病

○一人あたりの献血の回数・量には制限がある



多くの方のご協力が必要！



高校生のみなさん！献血にご協力を！



20代の人口はこの20年間に約30%減少しました。

さらに、1年間の献血者数は128万人（約64%）も減少※しています。

患者さんの命を助けるため、これからも血液を確保していくためには、

若い世代のみなさんの協力が必要です。

※200万人（平成10年度）から72万人（平成30年度）に減少

献血ができる場所

日本赤十字社の**献血ルーム**や**献血バス**で献血できます。
詳しくは、日本赤十字社のホームページをご覧ください。

日本赤十字社 献血

検索



? 献血ルームってどんなところ? ?



近未来的な内装の
「akiba:F献血ルーム」



ブックカフェをイメージした
「横浜Leaf献血ルーム」



木目を基調とした内装の
「まちだ献血ルームcomfy」



東京スカイツリータウン・ソラマチにある
「献血ルームfeel」



献血後に水分や栄養を補給するため、
ジュースやお菓子を提供しています。
漫画や雑誌等を置いているルームもあります。

1 受付



受付確認票に記入します。
本人確認のため、ご自身を証明できるものを提示します。

学生証も有効なの？

「氏名」「生年月日」「顔写真」
が揃っていれば有効です。
3つ揃わない場合は他の証明書
も必要です。



2 健康診断



質問に正確に回答します。



回答に基づき、問診と血圧・体温測定などを行います。

ご飯は食べたかな？
昨日はちゃんと寝れたかな？
熱はないかな？



少量の採血を行い、献血ができるかどうかを事前に調べます。

3 採血



診断結果に問題が無ければ、採血します。

どのくらい時間がかかるの？
献血の種類や献血する量によって異なります。**全血献血は10～15分、成分献血は40～90分**です。



4 休憩



十分に水分を取り、**少なくとも10分以上**休憩します。

献血当日の激しい運動は控えましょう。



5 献血終了



献血カードを受け取り、献血は終了です。



献血後の注意

気分が悪くなったり、めまいでフラフラすることがあります。特に階段や駅のホームでは注意してください。気分が悪くなったら、すぐにしゃがむか横になってください。心配なことがあったら、血液センターに連絡してください。

Q1 献血をして病気になったり、うつることはないの？



A

心配ありません。献血をして病気になることはありません。

献血をするときに使われる針や血液バッグなどは、献血者一人ひとり新しいものに交換しています。

Q2 初めてなので、400mLも献血するのは不安…

献血の種類ごとの基準（年齢や体重など）を満たしていれば、安全です。

不安がある場合は200mL献血もできます。

A



Q3 献血をすると、自分の体のことが分かって本当？



A

ご希望の方には、貧血などの検査結果をお知らせしています。ぜひ健康管理に役立ててください。

なお、HIVの検査結果は通知されません。エイズ検査は保健所等で無料・匿名で受けられます。

Q4 献血できない場合もあるの？

A

血液には病原体が含まれていることがあります。
患者さんの安全を守るため、以下に当てはまる方は献血できません。

歯科治療

- 3日以内に
出血を伴う
治療を受け
た人



薬を飲んでいるとだめなの？
病気や薬の種類によって、
献血できない場合があるので
相談してね。



海外渡航

- 4週間以内に海外から帰国
(入国)した人
- 特定の時期に一定期間イギリ
スなどへの海外
渡航歴がある人



ピアス

- 唇や口の中、鼻など粘膜を貫通してピアスをしている人
- 1ヶ月以内に医療機関で穴を開けた人
- 6ヶ月以内に安全ピンや針を友達と共有して穴を開けた人

予防接種

- 接種後 24 時間：インフルエンザ、子宮頸がん、A 型肝炎など
- 接種後 2 週間：B 型肝炎



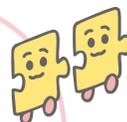
※上記の他にも献血できない場合
があります。詳しくは日本赤十
字社HPをご覧ください。

日本赤十字社 献血

検索

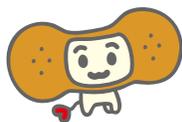


はじめて献血した人の声



はじめての献血でしたが、
幅広い年代の方がいて
とても明るい雰囲気に
驚きました。

思っていたより
痛みもなくて、
待ち時間も快適に
過ごせました。

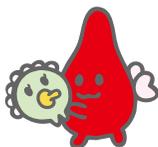


初めての献血でしたが
丁寧に対応して頂き、
嬉しかったです！

献血常連の友だちと
初の献血。
誰かの力になれた
実感がわきました。



はじめは少し怖かったですが
すごく楽しかったので
また来たいです。



輸血をしてもらう

小学校3年生の時に体調不良の日が続き、病院に行き検査をすると「急性骨髄性白血病」とわかり入院をしました。

抗がん剤治療と骨髄移植をするために1年3か月入院をしました。治療中、数えきれないぐらいの輸血をしました。

輸血しないで、抗がん剤治療だけしていても、私は、今ここにすることができません。

献血呼びかけボランティアをはじめて

私は、輸血をしたので、献血はすることができませんが、「何か手伝えることはないかな?」と探しているときに、「献血呼びかけボランティア」というのを見つけました。

献血ルームに行くと、献血に来てくれている人が大勢いて、私と同級生ぐらいの高校生も大勢いたので、びっくりしたと同時に、「献血ルームに来てくれる人がいるから、輸血ができたんだな。」と感謝しかありません。

これからも、多くの人に献血を知ってもらい、献血したり、他の人に広めていってほしいです。



北東 紗輝さん



40歳で診断された難病



恒川 礼子さん

仕事や子育てに走りまわっていた40歳の時に自己免疫の病気「重症筋無力症」と診断されました。全身の筋肉に力が入りにくく、すぐに疲れてしまう。その時服用していた薬の副作用に悩まされ、気持ちと身体をだましながら毎日を過ごしていました。

救ってくれたのは、献血から生まれた薬

そんな時新たな治療法として免疫グロブリン療法を取り入れることになりました。この治療の薬はみなさんが献血してくださった血液からつくられます。免疫系の病気の仲間もこの薬のおかげで命をつなぎ、学校生活や社会生活を送ることができるようになっていきます。献血をしてくださったみなさんに心より感謝申し上げます。





「学生献血推進ボランティア」の方に、 献血の大切さを聞きました。



全国学生献血推進実行委員会
委員長 松本 大樹さん

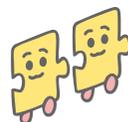
皆さん、献血にどんなイメージを持っていますか？献血は、短い時間で命を救えるボランティアです。

少子化の影響で、これまで以上に若い世代の協力が必要になっていきますので、ぜひ献血をお願いします。また、高校生向けのイベントを開催していますので、ぜひ参加してみてください。

高校生に献血について知ってもらう
ため、勉強会を実施！



熊本県赤十字血液センターでの
見学の様子。



1月

「はたちの献血」キャンペーン

毎年1月～2月に「はたちの献血」キャンペーンを実施しています。

2月

キャンペーン期間中は、ポスターやインターネットなどによる広報のほか、全国各地でさまざまなイベントを開催します。



7月

愛の血液助け合い運動

毎年7月に「愛の血液助け合い運動」月間を実施しています。

メインの行事として、献血運動推進全国大会を開催します。



ハロウィン献血

10月



12月

クリスマス献血





「誕生!! KKT21」 ～始めよう献血 君の勇気が命を救う～

「誕生!! KKT21」

～始めよう献血 君の勇気が命を救う～



献血アイドルを主人公にしたオリジナルのアニメ動画を公開しています。



▶ 詳しくはこちら
(厚生労働省HP)



「ありがとうの手紙」

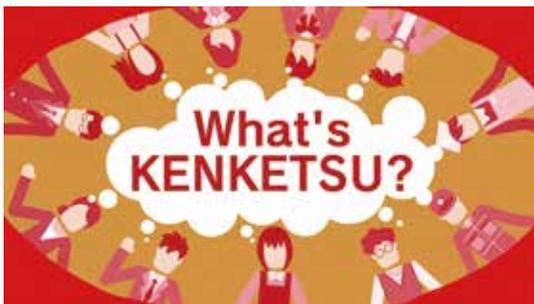
急性リンパ性白血病を発症し、輸血を経験された友寄 蓮さんの体験談を紹介しています。



▶ 詳しくはこちら
(日本赤十字社HP)



「What's KENKETSU？」 ～3分でわかる献血のはなし～

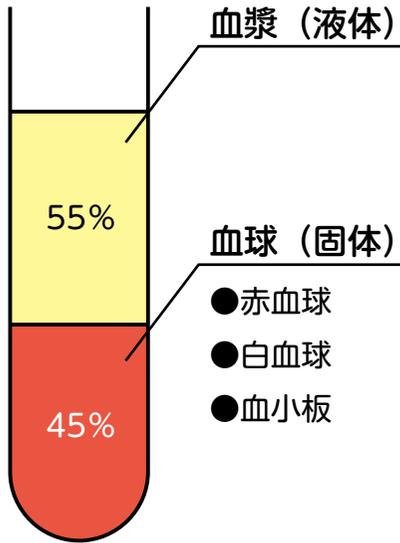


「What's KENKETSU?～3分でわかる献血のはなし～」では、献血についてわかりやすく説明しています。



▶ 詳しくはこちら
(日本赤十字社HP)

■血液の成分 血液は、人間の体に必要な酸素や栄養分を体中に運んでいます。



血漿

- 体内の炭酸ガスを肺へ運び、組織呼吸で空気中に放出
- 栄養分を体の各部に運ぶ
- 老廃物を腎臓から排出

赤血球

- 肺で酸素を取り込んで、体の各部へ運ぶ

O₂ぼうや 

赤血球のせっちゃん

白血球

- 体内に侵入した細菌やウイルスを消化・殺菌



白血球のはっちゃん

血小板

- 血管が損傷したときに、血管をふさいで出血を止める



血小板のぼんちゃん

■血液型 血液には、いろいろな型があります。

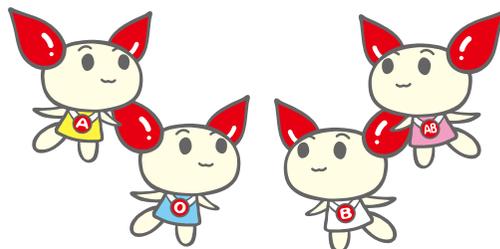
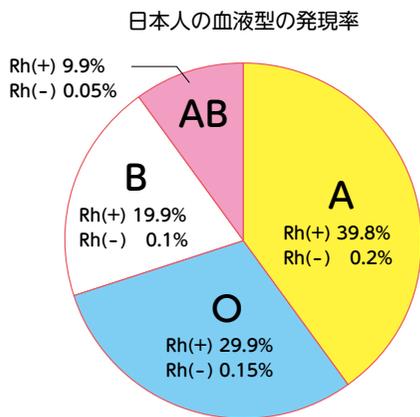
【主な血液型】

■赤血球の型：ABO型、Rh型

■白血球の型：HLA型

輸血をするときは、誰の血液でも良いというわけではありません。

同じ血液型の血液を輸血しないと、重い副作用が生じてしまいます。



下の2つの血液型を合わせて、輸血をします。

ABO 型

Rh 型

■献血の種類

献血には4つの種類があります。

全血
献血

400mL
献血

200mL
献血

血液中全ての成分を
採血する方法です。

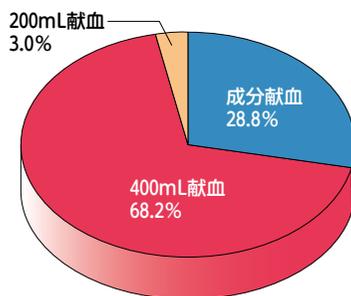
成分
献血

血小板
成分献血

血漿
成分献血

血小板や血漿だけを
採血する方法です。体内
で回復するのに時間の
かかる赤血球は再び体
内に戻します。

献血種類別の構成比 (2018年度)



(日本赤十字社調べ)

■採血基準

この採血基準に当てはまる場合に献血ができます。(問診などの結果では献血できないこともあります。)

これは、献血者の健康を保護するために設定されています。

採血基準の主なもの

		200mL献血	400mL献血	成分献血
年齢	男	16歳から	17歳から	18歳から
	女		18歳から	
体重	男	45kg以上	50kg以上	45kg以上
	女	40kg以上		40kg以上

16歳から献血
できるっち!



【教員の皆様へ】
参考資料(17頁)をご参照ください

■血液製剤の種類

献血で集められた血液は、さまざまな薬となって、患者さんのもとに届きます。

いただいた献血血液の

50% 50%

輸血用血液製剤

血漿分画製剤

赤血球製剤

- 保存温度 2～6℃
- 有効期間 採血後21日間



出血および赤血球が不足する状態、またはその機能低下による酸素欠乏のある場合に使用されます。

血液凝固第Ⅷ因子製剤



血友病などに使われます。

血小板製剤

- 保存温度 20～24℃
- 有効期間 採血後4日間
- 要振とう



血小板の減少またはその機能低下による出血ないし出血傾向のある場合に使用されます。

アルブミン製剤



やけどやショックなどの場合に使われます。

血漿製剤

- 保存温度 -20℃以下
- 有効期間 採血後1年間



複数の血液凝固因子の欠乏による出血ないし出血傾向のある場合に使用されます。

免疫グロブリン製剤



重症感染症、川崎病、ある種の神経疾患、免疫機能が低下した場合などに使われます。

全血製剤

- 保存温度 2～6℃
- 有効期間 採血後21日間



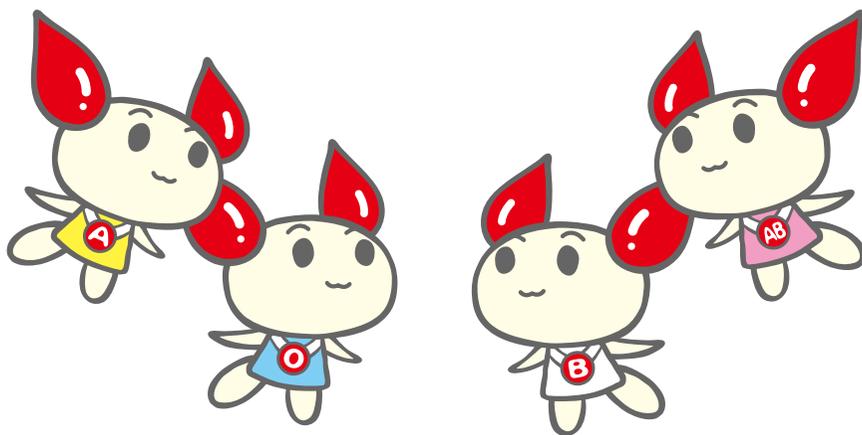
大量出血などすべての成分が不足する状態で、赤血球と血漿の同時補給を要する場合に使用されます。

その他

献血血液の半分は輸血以外に使われています。



參 考 資 料 編



高校生に対する献血推進が重要です。

① これからの日本社会の人口動態を考慮すると、献血可能人口は減少すると推定されます。血液製剤は医療に無くてはならないものですので、血液が足りなくなると患者さんに届けられない、という事態はどうしても避けなければなりません。

そのため、**これからの社会を支える若年層の献血者をいかに増やすかが喫緊の課題**となっています。

② 厚生労働省が献血経験者を対象に実施した調査では、多くの人（特に、初回献血が高校だった人）が「**高校での献血がその後の献血への動機付けに有効**」と考えていることがわかりました（下図参照）。

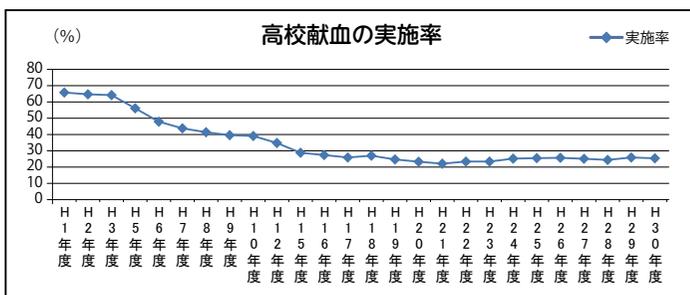
Q. 高校での集団献血が、その後の献血への動機付けとなるか



少しでも献血に触れ合える機会を生徒に提供してください。

献血バスが出向いて実施された高校献血は昔、実施率が約6割ととても盛んに行われておりましたが、徐々に減少し、**現在では2割～3割程度**にまで落ち込んでいます。

この高校献血の減少によって、学生たちは献血に触れ合う機会自体が減ってきています。



献血については、平成21年7月に改訂された「高等学校学習指導要領解説／保健体育編」に「献血の制度があることについても適宜触れる」ことが追記され、**平成25年度から高等学校の授業で触れられる環境が整いました。**

献血受入を行っている日本赤十字社では、**献血のきっかけづくりや、将来にわたって献血にご協力いただくための取組として、学校に出向いての「献血セミナー」（スライド・映像やパンフレットを用いた学習講座）を積極的に実施**しております。

詳しくは、最寄りの血液センターへお問い合わせください。



採血基準^{※1}

項目	全血献血		成分献血	
	200mL献血	400mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血
1回献血量	200mL	400mL	600mL以下（体重別）	
年齢	16歳 ^{※2} ～69歳	男性17歳 ^{※2} ～69歳 女性18歳	18歳 ^{※2} ～69歳	男性18歳 ^{※2} ～69歳 女性18歳～54歳
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	男女とも 50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	
最高血圧	90mmHg以上			
血色素量 （ヘモグロビン濃度）	男性 12.5g/dl以上 女性 12g/dl以上	男性 13g/dl以上 女性 12.5g/dl以上	12g/dl以上 <small>（赤血球指数が標準域にある女性は11.5g/dl以上）</small>	12g/dl以上
血小板数	—	—	—	15万/μl以上
年間献血回数 ^{※3※4}	男性6回以内 女性4回以内	男性3回以内 女性2回以内	血小板成分献血1回を2回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内	
年間総献血量 ^{※3※4}	200mL献血と400mL献血を合わせて 男性1,200mL以内、女性800mL以内		—	—
共通事項	次の者からは採血しない ① 妊娠していると認められる者、又は過去6ヵ月以内に妊娠していたと認められる者 ② 採血により悪化するおそれのある循環器系疾患、血液疾患、その他の疾患にかかっていると認められる者 ③ 有熱者その他健康状態が不良であると認められる者			

※1 採血基準は、献血にご協力いただける方の健康を保護するために、国が定めたもので、採血の実施は、医師が問診結果等を踏まえて総合的に判断します。

※2 65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までに献血の経験がある方に限られます。

※3 期間の計算は採血を行った日から起算します。

※4 1年は52週として換算します。

（献血の間隔）^{※5}

今回の献血	全血献血		成分献血	
	200mL献血	400mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血 ^{※6}
200mL献血	男女とも4週間後の同じ曜日			
400mL献血	男性は12週間後、女性は16週間後の 同じ曜日		男女とも8週間後の同じ曜日	
血漿成分献血	男女とも2週間後の同じ曜日			
血小板成分献血				

※5 期間の計算は献血を行った日から起算します。

※6 血漿を含まない場合には、1週間後に血小板成分献血が可能になります。ただし、4週間に4回実施した場合には次回までに4週間以上あけてください。

献血いただく前に

献血される方と患者さんの安全を守るため、受付確認票に記入する前に、「お願い!」パンフレットが渡されます。重要な内容ですので、生徒に指導する際の参考にしてください。

献血いただく前に

献血いただく前に、これをよく読んでいただき、了解された上でご記入いただけます。

●献血前に

- お名前、生年月日、住所、電話番号などは正確にお書きください。
- ご本人の確認のため、運転免許証などの提示をお願いします。
- 問診項目には正確にお答えください。事実と異なる回答をされた場合、輸血を受けた患者さんに深刻な状況をもたらす場合があります。
- プライバシーは法令を遵守し、適正に取り扱います。
- 献血後に高所作業や激しいスポーツ、自動車の運転等をされる方は献血前にお知らせください。特に乗り物の運転をされる方は、献血後に十分な休憩(30分以上)をおとりください。
- 献血に伴う副作用予防のため、献血前に水分(スポーツドリンクなど)を補給してください。

●献血時は

- 200mL・400mL 献血では10分から15分程度、成分献血では体重等に応じて採血する量(上限600mLまで)が異なりますので、40分から90分程度の採血時間がかかります。
- 血圧や血色素量(ヘモグロビン濃度)を事前に測定します。
- 採血針や血液バッグなどは、お一人ずつ使い捨てとなっています。

●採血副作用と注意

採血中や採血後に、気分不良、吐き気、めまい、失神などが約0.9%(1/100人)、針を刺すことによる皮下出血が約0.2%(1/500人)、神経損傷(脱力や痛み)が約0.01%(1/10,000人)程度の頻度で発生します。また、失神に伴う転倒がまれに発生する場合があります。

- 採血針を刺した箇所針跡が残ることがあります。
- 針を刺した時に、強い痛みやしびれがある場合は、すぐに職員にお知らせください。また、皮下出血等も我慢せずにお知らせください。
- 採血中に気分不良やめまいを起こした場合は、立ち上らず、そのままの姿勢ですぐに職員にお知らせください。また、採血後に同様の症状を起こした場合は転倒を防止するために、すぐにしゃがむか横になってください。
- 献血によって健康被害が生じた場合、医療費等を補償する**献血者健康被害救済制度**がもうけられています。くわしくは、血液センター職員にお尋ねください。

●献血いただいた血液は

- ごくまれに献血いただいた血液が採血装置などの不具合・不良により輸血に使用できなくなることがあります。
- 次の検査を実施し、すべてが輸血に適すると判断された場合のみ輸血に使用します。
・血液型(ABO型、Rh型、HLA遺伝子型等)、不規則抗体、梅毒、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、エイズウイルス、HTLV-1(ヒトT細胞白血病ウイルス-1型)、ヒトパルボウイルスB19、ALT(肝機能)
- 必要により、赤血球型、白血球型、血小板型や血漿蛋白の遺伝子検査を行う場合があります。なお、その他の遺伝子検査が必要な場合はあらかじめご本人の承諾を得て行います。
- 献血いただいた血液の一部は、輸血副作用・感染症などの調査のために少なくとも11年間冷凍保管しています。
- 献血いただいた血液は、血液製剤の有効性・安全性の向上と検査法の向上のための研究や、安全な輸血のための検査試薬の製造など、輸血用以外の目的に有効活用させていただくことがあります。

献血を希望する際は、全員、質問事項に正しく回答する必要があります。

問診は、感染直後から抗原または抗体が検出できるまでの感染の事実を検知できない期間（ウインドウ期）などにおいて実施可能な、検査の限界を補う唯一の方法です。

献血者は、献血の方法や危険性などを理解することはもちろん、問診の意義や目的を正しく理解し、患者に安全な血液製剤を提供するために「安全で責任ある献血」をすることが必要です。

質問事項

1	今日の体調は良好ですか。	13	今までに次の病気にかかったことがありますか。 C型肝炎、梅毒、マラリア、バベシア症、シャーガス病、リーシュマニア症、アフリカトリパノソーマ症
2	3日以内に出血を伴う歯科治療（抜歯、歯石除去等）を受けましたか。	14	海外から帰国（入国）して4週間以内ですか。
3	3日以内に薬を飲んだり、注射を受けましたか。	15	1年以内に外国（ヨーロッパ・米国・カナダ以外）に滞在しましたか。
4	次の育毛薬／前立腺肥大症治療薬を使用しましたことがありますか。 プロペシア・プロスカールなど（1ヵ月以内）、アボダート・アボルブなど（6ヵ月以内）	16	4年以内に外国（ヨーロッパ・米国・カナダ以外）に1年以上滞在しましたか。
5	次の薬を使用しましたことがありますか。 乾せん治療薬（チガソン）、ヒト由来プラセンタ注射薬（ラエンネック・メルスモン）	17	英国に1980年（昭和55年）～1996年（平成8年）の間に通算1ヵ月以上滞在しましたか。
6	24時間以内にインフルエンザの予防接種を受けましたか。	18	ヨーロッパ（英国も含む）・サウジアラビアに1980年以降、通算6ヵ月以上滞在しましたか。
7	1年以内にインフルエンザ以外の予防接種を受けましたか。	19	エイズ感染が不安で、エイズ検査を受けるための献血ですか。
8	次の病気や症状がありましたか。 3週間以内－はしか、風疹、おたふくかぜ、帯状ほしん、水ぼうそう 1ヵ月以内－発熱を伴う下痢 6ヵ月以内－伝染性単核球症、リンゴ病（伝染性紅斑）	20	6ヵ月以内に次のいずれかに該当することがありましたか。 ①不特定の異性または新たな異性との性的接触があった。 ②男性どうしの性的接触があった。 ③麻薬、覚せい剤を使用した。 ④エイズ検査（HIV検査）の結果が陽性だった（6ヵ月以前も含む）。 ⑤上記①～④に該当する人と性的接触をもった。
9	1ヵ月以内に肝炎やリンゴ病（伝染性紅斑）になった人が家族や職場・学校等にいますか。	21	今までに輸血（自己血を除く）や臓器の移植を受けたことがありますか。
10	6ヵ月以内に次のいずれかに該当することがありましたか。 ①ピアス、またはいれずみ（刺青）をした。 ②使用後の注射針を誤って自分に刺した。 ③肝炎ウイルスの持続感染者（キャリア）と性的接触等親密な接触があった。	22	今までに次のいずれかに該当することがありますか。 ①クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）または類縁疾患と診断された。 ②血縁者にCJDまたは類縁疾患と診断された人がいる。 ③ヒト由来成長ホルモン注射を受けた。 ④角膜移植を受けた。 ⑤硬膜移植を伴う脳神経外科手術を受けた。
11	1年以内に次の病気等にかかったか、あるいは現在治療中ですか。 外傷、手術、肝臓病、腎臓病、糖尿病、結核、性感染症、ぜんそく、アレルギー疾患、その他	23	現在妊娠中または授乳中ですか。 6ヵ月以内に出産、流産をしましたか。
12	今までに次の病気にかかったか、あるいは現在治療中ですか。 B型肝炎、がん（悪性腫瘍）、血液疾患、心臓病、脳卒中、てんかん		

1

今日の体調は良好ですか。

発熱のある人は、細菌やウイルスが血液中に出てくる（菌血症又はウイルス血症）疑いがあるため、**献血してはいけません。**

また、献血者の緊張度や体調によっては、採血をしている間にVVR（血管迷走神経反応）などの副作用が起こる可能性があるため、十分に体調を整えて献血することが重要です。

2

3日以内に出血を伴う歯科治療（抜歯、歯石除去等）を受けましたか。

3日以内に出血を伴う歯科治療を受けた人は、口腔内常在菌が血液中に出ている（菌血症）可能性があるため、**献血してはいけません。**

3

3日以内に薬を飲んだり、注射を受けましたか。

抗生物質や鎮痛解熱剤を服用又は注射された人は、**献血してはいけません。**感染症を起こしていたり、薬物が血小板の機能に悪影響を及ぼしたりする可能性があるからです。

その他の薬物を服用している場合でも、病気や薬の影響により献血できない場合があります。

4

次の育毛薬／前立腺肥大症治療薬を使用したことがありますか。

プロペシア・プロスカールなど（1ヵ月以内）、
アボダート・アボルブなど（6ヵ月以内）

アンチアンドロゲン系ホルモン剤であるこれらの薬剤は、胎児に対する催奇形性が指摘されているため、**プロペシア・プロスカールなどは服用後1ヵ月間、アボダート・アボルブなどは服用後6ヵ月間献血してはいけません。**

プロスカール及びアボダートは日本では医薬品として未承認ですが、育毛薬として個人輸入し、服用（経口）している人がいます。また、アボダートと同様の成分（dutasteride）を含むデュタスタヤ、プロペシアと同様の成分（finasteride）を含むフィンペシア、フィンカーなどのジェネリック医薬品も同様の扱いとなります。

5

次の薬を使用したことがありますか。

乾せん治療薬（チガゾン）
ヒト由来プラセンタ注射薬（ラエンネック・メルスモン）

乾せんの治療に用いられる**チガゾン**は、米国（FDA）の基準にある採血禁忌薬剤である Tegison（合成レチノイド）に該当し、催奇形性が指摘されているため、**服用歴がある場合や、服用した人は献血してはいけません。**

また、ヒト由来プラセンタ注射薬の原料であるヒト胎盤からの異常プリオン感染による変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）の危険性が理論上完全に否定できないため、**過去にラエンネック、メルスモンの注射をした人にも献血をご遠慮いただいています。**

なお、現在、ヒト由来プラセンタ注射薬の使用によるvCJDの感染事例は報告されていません。

6

24時間以内にインフルエンザの予防接種を受けましたか。

インフルエンザワクチンは、不活化ワクチンであり、血中に病原体が存在する危険性はありませんが、献血者の体調を考慮して**接種後24時間を経過するまで献血してはいけません。**

7

1年以内にインフルエンザ以外の予防接種を受けましたか。

インフルエンザワクチン以外の不活化ワクチンやトキソイド（例えば、日本脳炎、コレラ、肺炎球菌、百日咳、A型肝炎等）を接種した人は、**接種後24時間を経過するまで献血してはいけません。**

B型肝炎ワクチン接種後は、HBs抗原検査が陽性と判定される可能性が高いため、**2週間献血してはいけません。**抗HBsヒト免疫グロブリンを単独またはB型肝炎ワクチンと併用した人は**6ヵ月間献血してはいけません。**

また、動物に噛まれた後に狂犬病ワクチンを接種した人は**接種後1年間**、弱毒生ワクチン（例えば黄熱、麻疹、ポリオ、おたふくかぜ、風疹、水痘、BCG）を接種した人は**接種後4週間献血してはいけません。**

その他、破傷風、蛇毒、ジフテリアの抗血清投与を受けた人は**3ヵ月間献血してはいけません。**

8

次の病気や症状がありましたか。

3週間以内

－はしか、風疹、おたふくかぜ、
帯状ほうしん、水ぼうそう

1ヵ月以内

－発熱を伴う下痢

6ヵ月以内

－伝染性単核球症、リンゴ病（伝染性紅斑）

麻疹ウイルス、風疹ウイルス、ムンプスウイルスの感染を予防するため、**はしか、風疹、おたふくかぜ、帯状ほうしん、水ぼうそうの治療後3週間以内の人は、献血してはいけません。**

輸血を介した細菌等の感染を防ぐため、**1ヵ月以内に発熱を伴う食中毒の激しい下痢をした人は献血してはいけません。**我が国でもエルシニア菌の感染疑い例が報告されており、エルシニア感染症が確定された場合は**6ヵ月間献血してはいけません。**米国の報告によれば、死亡の危険率は輸血1単位あたりおよそ1/900万です。

エプスタイン・バーウイルス（EBV）の感染を防ぐため、**伝染性単核球症の症状が消えた後6ヵ月間献血してはいけません。**このウイルスの適切な検査方法は、世界的にも確立されていませんが、我が国では、ほとんどの人がかかったことがあるウイルスであり、生後2～7歳ではほぼ80%が、成人ではほぼ100%が抗体陽性を示します。輸血による感染は一般に症状が現れず、我が国では報告がありません。外国では伝染性単核球症や肝炎の発症が数例報告されています。

また、ヒトパルボウイルスB19の感染を防ぐため、**リンゴ病（伝染性紅斑）の症状が消えた後6ヵ月間献血してはいけません。**日本では成人の約50%がこのウイルスに対する抗体が陽性であり、ウイルス血症の頻度は低く（国内の報告によれば流行期で4000人に1人）、輸血による感染の危険性は非常に低くなっています。また、仮に症状が出現しても急性一過性に経過し、重症化はしません。ただし、溶血性貧血の患者や免疫抑制状態にある患者が感染した場合には、重症の貧血（赤芽球ろう）を起こす危険性があり、また、子宮内で胎児が感染した場合、流産、胎児水腫を起こすことがあります。

9

1ヵ月以内に肝炎やリンゴ病（伝染性紅斑）になった人が家族や職場・学校等にいますか。

A型肝炎ウイルス（HAV）、E型肝炎ウイルス（HEV）の感染を防ぐため、**1ヵ月以内に家族や職場等にA型肝炎、E型肝炎を発症した人がいる場合は、1ヵ月間献血してはいけません。**通常、経口摂取により感染しますが、潜伏期から急性期にかけてウイルス血症が起こり、血液による感染が起こり得ます。

同様に、ヒトパルボウイルスB19の感染を防ぐため、**1ヵ月以内に家族や職場等にリンゴ病（伝染性紅斑）を発症した人がいる場合は、献血してはいけません。**

10

6ヵ月以内に次のいずれかに該当することがありましたか。

- ① ピアス、またはいれずみ（刺青）をした。
- ② 使用後の注射針を誤って自分に刺した。
- ③ 肝炎ウイルスの持続感染者（キャリア）と性的接触等親密な接触があった。

B型肝炎ウイルス（HBV）やC型肝炎ウイルス（HCV）の感染を可能な限り防止するため、**他人の血液や体液に暴露された可能性のある人、6ヵ月以内にウイルスキャリアとの親密な接触をした人は献血してはいけません。**

現在、肝炎ウイルスに感染する危険性が高いと考えられるのは、注射器の回し打ち、消毒などを十分に行っていない器具によるピアス・刺青、不特定の相手との性的接触といわれています。ただし、日常生活で感染することはほとんどありません。また、C型肝炎ウイルスについては、性的接触で感染することはほとんどありません。

11

1年以内に次の病気等にかかったか、あるいは現在治療中ですか。

外傷、手術、肝臓病、腎臓病、糖尿病、結核、性感染症、ぜんそく、アレルギー疾患、その他

採血の際に副作用が起きたり、献血者の健康に悪影響を与えるおそれがある疾患については、献血者自身と受血者双方の安全性を確保するため、**献血をご遠慮いただく場合があります。**また、開胸・開腹・開頭を要するような大手術を受けた人及び開放骨折をした人は、**6ヵ月間献血をご遠慮いただいています。**ぜんそく、アレルギー疾患等についても、治療薬が患者に悪影響を及ぼすおそれがあるため、**献血をご遠慮いただく場合があります。**

12

今までに次の病気にかかったか、あるいは現在治療中ですか。

B型肝炎、がん（悪性腫瘍）、血液疾患、心臓病、脳卒中、てんかん

B型肝炎ウイルスキャリアは長期の経過により、ウイルスが変異して産生するウイルス抗原量が少なくなり、検出感度以下となる場合があります。従って、**過去にB型肝炎ウイルスキャリアと診断されたことがある人は献血してはいけません。**

血液疾患、心臓病、脳卒中、てんかん等については、採血の際に副作用が起きたり、献血者の健康に悪影響を与えるおそれがあるため、また、**がんの既往がある場合は、原則として献血をご遠慮いただいています。**

13

今までに次の病気にかかったことがありますか。

C型肝炎、梅毒、マラリア、バベシア症、シャーガス病、リーシュマニア症、アフリカトリパノソーマ症

C型肝炎は慢性化しやすく、肝炎が治癒しても血中にウイルスが存在していることがあるので、**C型肝炎の既往のある人及びC型肝炎ウイルスキャリアと言われたことのある人は献血してはいけません。**

梅毒は、血小板製剤や新鮮血の使用で感染するおそれがあるので、**既往歴のある人は献血してはいけません。**

マラリアの既往歴のある人は、マラリアの発熱発作が長期間みられなくても、肝臓等にマラリア原虫が残存している場合があります（特に三日熱マラリア原虫、卵形マラリア原虫）、輸血による感染源になりうるため、**献血してはいけません。**

その他、**シャーガス病やバベシア症等の既往歴のある人も献血してはいけません。**

14

海外から帰国（入国）して4週間以内ですか。

海外との交流が盛んになるにつれて、海外で何らかの感染性疾患に罹患したまま帰国（入国）する人が多くなっています。これらの疾患は、マラリアのように血液を介して感染するものが多く、その一つ一つを何らかの検査でスクリーニングすることは困難です。ウエストナイル熱をはじめとする輸入感染症対策のため、**大半の輸入感染症の潜伏期間内にある帰国後4週間は献血してはいけません。**

15

1年以内に外国（ヨーロッパ・米国・カナダ以外）に滞在しましたか。

16

4年以内に外国（ヨーロッパ・米国・カナダ以外）に1年以上滞在しましたか。

マラリアによる感染を防ぐため、WHOの指定しているマラリア流行地域に旅行した人については**1年間、長期滞在者については3年間献血してはいけません。**アメリカではおよそ100万単位当たり0.25の確率で輸血による感染が起こっており、我が国では、その頻度はさらに低いものと考えられていますが、今後海外旅行等の増加により、危険性が高まるのが懸念されています。

その他、中南米に居住歴のある方については、中南米に流行地をもつサシガメ（昆虫）が媒介するシャーガス病のリスク（病原体保有者）がある場合がありますので注意が必要です。

17

英国に1980年（昭和55年）～1996年（平成8年）の間に通算1ヵ月以上滞在しましたか。

18

ヨーロッパ（英国も含む）・サウジアラビアに1980年以降、通算6ヵ月以上滞在しましたか。

変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）については、輸血で感染する可能性が示唆されています。したがって、昭和55年以降に、表中のA及びBに掲げる「採血制限対象国」において、「通算滞在歴」の欄に掲げる期間滞在した人は、**献血してはいけません。**なお、平成30年12月時点で、英国において、輸血により異常プリオンタンパクに感染した疑いのある事例が4例、血液凝固因子製剤により感染した疑いのある事例が1例報告されています。

		採血制限対象国	通算滞在歴	滞在時期
対象国と滞在歴	A	① 英国	1ヵ月以上 (1996年まで) 6ヵ月以上 (1997年から)	1980年～ 2004年
		② アイルランド、イタリア、オランダ、スペイン、ドイツ、フランス、ベルギー、ポルトガル、サウジアラビア	6ヵ月以上	
		③ スイス	6ヵ月以上	
	B	① オーストリア、ギリシャ、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ルクセンブルグ	5年以上	1980年～ 2004年
		② アイスランド、アルバニア、アンドラ、クロアチア、サンマリノ、スロバキア、スロベニア、セルビア(2008年に分離独立した「コンボ」含む)、モンテネグロ、チェコ、バチカン、ハンガリー、ブルガリア、ポーランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、北マケドニア共和国、マルタ、モナコ、ノルウェー、リヒテンシュタイン、ルーマニア	5年以上	

※Bに掲げる国の滞在歴を計算する際には、Aに掲げる国の滞在歴を加算するものとする。

19

エイズ感染が不安で、エイズ検査を受けるための献血ですか。

エイズに限らず、**感染症の検査を目的とする献血は、輸血を受ける患者に対して感染の危険性を高めるもの**ですから、**絶対に行ってはいけません。**エイズ検査は保健所等にて無料・匿名で実施されています。

20

6ヵ月以内に次のいずれかに該当することがありましたか。

- ① 不特定の異性または新たな異性との性的接触があった。
- ② 男性どうしの性的接触があった。
- ③ 麻薬、覚せい剤を使用した。
- ④ エイズ検査（HIV検査）の結果が陽性だった（6ヵ月以前も含む）。
- ⑤ 上記①～④に該当する人と性的接触をもった。

エイズの原因となるウイルスである HIV に感染している危険性のある人は、**献血してはいけません。**

HIV 感染者及びエイズ患者の報告数は近年 1,500 件前後で推移しています。平成 30 年の新規 HIV 感染者の報告件数は 940 件であり、新規エイズ患者の報告件数は 377 件でした。累積報告件数は HIV 感染者報告数が 20,836 件、エイズ患者報告数が 9,313 件になりました。平成 30 年の HIV 感染者の主な感染経路は、異性間の性的接触 157 件 (16.7%)、同性間の性的接触 670 件 (71.3%) であり、他にも母子感染 1 件 (0.1%) などがあげられています。

エイズについては、昭和 56 年に米国で世界初の症例報告があり、昭和 58 年には HIV が発見され、昭和 60 年に日本人初のエイズ患者が認定されました。我が国では約 1,400 名の血友病患者が、血友病治療のために使用していた非加熱血液凝固因子製剤により HIV に感染し、国及び製薬企業 5 社を被告とする損害賠償請求訴訟が提起され、平成 8 年 3 月に和解が成立しました。また、和解に則り、非加熱製剤により HIV に感染された方に対する救済事業等を実施しています。

加熱処理が導入されてからは、血液凝固因子製剤などの血漿分画製剤による感染は報告されていません。また、献血血液については、昭和 61 年から HIV の抗体検査が始まりました。平成 11 年には核酸増幅検査 (NAT) が導入され、輸血による感染の危険性は大幅に減少しています。しかしながら、平成 15 年に、NAT 導入後の輸血後 HIV 感染が 1 例、20 プール NAT 導入後も平成 25 年に 1 例報告されており、更なる安全対策として平成 26 年に個別検体による個別 NAT を導入しました。検出感度の優れている個別 NAT といえども、感染ごく初期のものは検出することができないことから、6ヵ月以内に上記 5 項目 (④は 6ヵ月以前も含む) のいずれかに該当する人は、**献血してはいけません。**

21

今までに輸血（自己血を除く）や臓器の移植を受けたことがありますか。

輸血歴、臓器移植歴のある方は、未知のウイルス等の感染を防ぐ意味から、献血をご遠慮いただいています。輸血の安全性は、相当程度改善しましたが、未知のウイルスを完全に排除することはできません。このような技術の限界を踏まえ、念のため、献血をご遠慮いただいているものです。

22

今までに次のいずれかに該当することがあります。

- ① クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) または類縁疾患と診断された。
- ② 血縁者に CJD または類縁疾患と診断された人がいる。
- ③ ヒト由来成長ホルモンの注射を受けた。
- ④ 角膜移植を受けた。
- ⑤ 硬膜移植を伴う脳神経外科手術を受けた。

プリオンの適切な検査法のない現在、問診のみが唯一のスクリーニング法です。**上記のいずれかに該当する人は、献血してはいけません。**

なお、硬膜移植を伴う脳神経外科手術に関しては、医療機器であるヒト乾燥硬膜「ライオデュラ」を介して CJD に感染し、被害を被ったことに対し、国、輸入販売業者及びドイツの製造業者を被告とする損害賠償訴訟が提起され、平成 14 年 3 月に和解が成立しました。

23

現在妊娠中または授乳中ですか。
6ヵ月以内に出産、流産をしましたか。

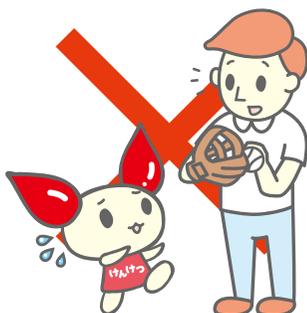
母体の健康を保護するため、妊娠中、出産・流産後 6ヵ月以内、授乳中（分娩後 1 年まで）の女性には**献血をご遠慮いただいています。**

問診内容の個人情報保護を厳守します。

献血後の注意事項

献血中や献血後、まれにめまいや皮下出血などの体調不良が発生することがあります。身体を守るため、以下の内容について注意する必要があります。

スポーツ



献血当日の激しいスポーツは避けてください。

身体への負担



重い荷物を持ちたりして、腕に力を入れすぎないように注意してください。また、針の跡をもんだり、こすったりしないでください。

気分が悪くなったり、めまいを感じたら、
すぐにしゃがむか、横になってください。
また、腕の痛みなど何か心配な時は、
直ちに血液センターまで連絡してください。



エレベーター・階段など



エレベーターや階段などを使用する際には、特に注意してください。

水分補給



水分を十分補給してください。

休憩



自転車に乗る時などは、十分な休憩をとってください。

献血者の健康被害

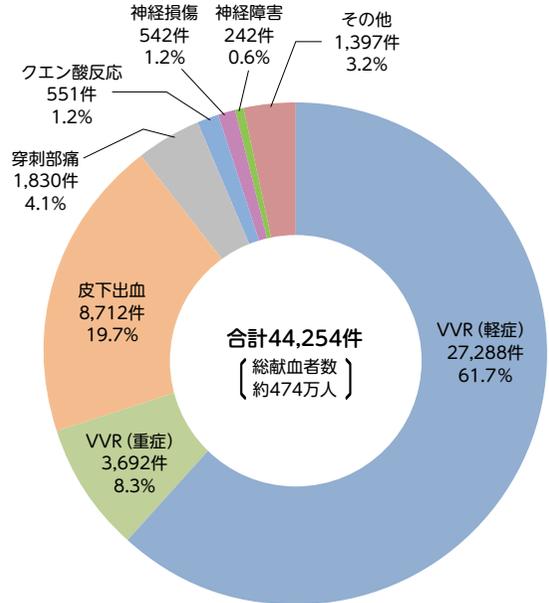


献血者の健康状態等を十分確認した上で採血を行います。時には気分不良、めまい、神経損傷などの健康被害が起こることがあります（大半は、採血後に十分な休憩や水分補給を行うことで防げます）。

献血者の健康被害の症状とその発生状況は右図のとおりです。

発生頻度が高いのは、血管迷走神経反応（VVR）と呼ばれるもので、一時的な気分不良や顔面蒼白などの症状が代表的です。

日本赤十字社では、これらの健康被害を防ぐために、採血後の安静や水分補給について注意を促し、万が一、腕の痛みなど健康状態に心配が生じた時は、血液センターに連絡するよう呼びかけています。



平成30年度の献血者の健康被害発生状況

献血者健康被害救済制度

健康被害が医療機関の受診を要するような状態になった場合、医療費や医療手当などが支給される制度です。

平成30年度は、新たに453人について、この制度が適用されました。

(令和2年2月1日現在)

給付項目	給付額等
医療費	病院又は診療所を受診した場合、その医療に要した費用を補填するもの。
医療手当	病院又は診療所を受診した場合に要する医療費以外の費用を補填するもの。その額は、1日につき4,600円、月ごとの上限を36,800円とする。
障害給付	後遺障害に対して、その障害の程度に応じた一時金を給付するもの。その額は、給付基礎額8,800円に障害等級1～14級に応じた倍数を乗じて得た額（440,000円～11,792,000円）とする。
死亡給付	採血によって生じた健康被害が原因で死亡した献血者等の一定の範囲の遺族に対して一時金を給付するもの。その額は、48,888,000円とする。
葬祭料	葬祭を行うことに伴う出費に着目して、葬祭を行う者に対して給付するもの。その額は、209,000円とする。

売血から献血、国内自給をめざして

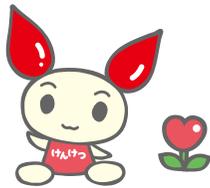
日本の血液事業のあゆみ〈ミニ年表〉

- 1948年(昭和23年) 赤十字国際会議が血液事業推進を決議。
- 1952年(昭和27年) 売血による商業血液銀行と献血による日本赤十字社(赤十字血液銀行)が血液事業を開始。
- 1956年(昭和31年) 「採血及び供血あつせん業取締法」施行。
人の血液の利用適正、被採血者の保護を目的とし、採血業者に対する規定を設けている。同法施行規則により採血基準が定められている。
- 1962年(昭和37年) 売血による供血者貧血と売血の輸血で血清肝炎が多発したことが社会問題となり、「黄色い血」追放運動始まる。
- 1964年(昭和39年) 輸血用血液を献血により確保する体制を確立するよう閣議決定。
- 1969年(昭和44年) 売血による輸血用保存血液の製造を中止(預血制度に切替え)。
- 1972年(昭和47年) 輸血後のB型肝炎の予防のため、B型肝炎ウイルスのHBs抗原検査を開始。
- 1974年(昭和49年) 輸血用血液の献血による自給の達成(預血制度を廃止)。
- 1980年(昭和55年) 成分輸血療法が普及し、全供給本数の70%以上となる。
輸入による血漿分画製剤の使用が飛躍的に増加。
- 1982年(昭和57年) 献血者全員に検査サービスとして、生化学検査の結果通知を開始。
- 1986年(昭和61年) 400ml採血及び成分(血漿、血小板)採血を導入。
輸血による感染が問題となっているHIV・ヒトリンパ球向性ウイルスI型抗体検査を開始。
- 1989年(平成元年) 輸血後C型肝炎の予防のため世界に先がけてHCV抗体検査を開始。
また、B型のための検査も従来のHBs抗原検査に加えてHBc抗体検査を開始。
- 1990年(平成2年) 国内の有償採血を完全に廃止。
民間企業の製造能力等を活用することについての関係三者による基本合意が成立する。
- 1991年(平成3年) 血液比重、血圧などの採血基準を緩和し、献血者の対象を拡大。
- 1992年(平成4年) 従来のHCV抗体検査より感度の高い第二世代の試薬によるHCV抗体検査を開始。
- 1993年(平成5年) 輸血による感染症や免疫反応による副作用防止のため、自己血輸血を普及・推進。
- 1994年(平成6年) 国民に献血いただいた血液による血液凝固第Ⅷ因子製剤の国内自給達成。
- 1995年(平成7年) 安全性をより高めるために、全国的に問診票を統一。
- 1998年(平成10年) GVHD(移植片対宿主病)を予防する放射線照射輸血用血液が承認され、供給を開始。
- 1999年(平成11年) 献血年齢の引き上げを行い、69歳(※1)まで献血が可能となる(血小板成分採血については、現行のまま54歳までとする)。
全血液センターの献血血液にNAT(核酸増幅検査)を導入。
- 2003年(平成15年) 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」施行。
- 2006年(平成18年) 献血カードを導入。
献血による健康被害に対する補償のための措置を実施。
- 2007年(平成19年) 白血球除去技術の導入。
- 2008年(平成20年) 抗原抗体検査においてCLEIA法(化学発光酵素免疫法)及び、より高感度のNATを導入。
- 2011年(平成23年) 400ml採血の献血年齢の引き下げを行い、男性に限り、17歳から献血が可能となる。
また、血小板成分採血の献血年齢の引き上げを行い、男性に限り、69歳(※1)まで献血が可能となる。また、健康診断の方法から血液比重検査を廃止し、男性に限り、血色量数の下限値を引き上げた(※2)。
- 2014年(平成26年) 診療録・問診票の電子化。
本人確認生体認証システムの導入。個別NATの導入。



※1 65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までの間に献血の経験がある方に限られる。

※2 200mL献血「12g/dl」→「12.5g/dl」、400mL献血「12.5g/dl」→「13g/dl」。



厚生労働省

お問い合わせ先

厚生労働省 医薬・生活衛生局血液対策課

東京都千代田区霞が関1-2-2

〒100-8916 TEL 03-5253-1111 (代表)

2020年2月 印刷